

コスタリカ大学パシフィコ校での JICA チェア開講にあたっての挨拶（仮訳）

JICA コスタリカ

所長 吉田憲

プンタレナス、2025 年 9 月 8 日

コスタリカ大学、ジョナタン・サラス・アルバラド先生（JICA-UCR チェア コーディネーター）、

コスタリカ大学、モーレン・マンレー・バエサ先生（パシフィコ校 管理コーディネーター）、

国際大学 加藤博教授、

そして教職員・学生の皆さま、

おはようございます。

私は JICA コスタリカの所長、吉田憲と申します。

まず初めに、この一連の講義の開催にあたりご尽力くださったコスタリカ大学の先生方、そして JICA との調整を通じて多大な努力をしてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。この共同の取り組みにより、加藤教授のご訪問が実現し、本日こうして JICA チェアのプログラムをコスタリカで推進できることを大変嬉しく思います。

また、加藤教授におかれましては、国際協力や開発援助のマネジメントに関する豊富な知識と貴重な経験を私たちと共有するためにコスタリカまでお越しくださり、心より感謝申し上げます。

この講義シリーズは「JICA チェア、日本研究支援プログラム」の一環であり、JICA が世界各国の大学と連携して実施しているものです。ここコスタリカでは、コスタ

リカ大学（UCR）および国立大学（UNA）がそのパートナーとして参加しています。

JICA チェアは、日本の発展経験を、歴史・文化・経済・教育など様々な分野を通じて理解・研究してもらうことを目的に設立されました。そのため、JICA と連携大学では、この目的達成のために講義、コース、セミナーなど多様な活動を行っています。

また、昨年は UCR から 2 名、UNA から 2 名の教授が日本を訪問し、現地の大学や関係機関で JICA チェアのプログラムについて学ぶ機会を得ました。現在、これら 4 名の先生方がそれぞれの大学で JICA チェアのコーディネーターを務めています。

2021 年以降、JICA とコスタリカ大学は JICA チェアの推進に向けて協力を続けており、その成果として、来年度から UCR の正規カリキュラム内で日本に関する単位付き科目が開講される予定です。JICA チェアが日本研究の基礎となることを願い、このような成果を共に築けることを大変嬉しく思います。

最後になりますが、JICA とコスタリカの協力の歴史はすでに半世紀を超えており、コスタリカ大学もその初期から多様な協力形態を通じてこの歴史の一端を担ってきました。これからも、コスタリカと日本が信頼と友情の絆をさらに深めていけることを心より願っています。

ありがとうございました。プーラ・ビーダ！